

特集

地方議会で見える労働・暮らし

- ♣ 扉 ペスの小犬 サトータツオ 1
- ♥ まなぶということ 飯島貞親 2
- ♠ 詩 あこがれのネパール 緑川ふみ 4



自治体議会の役割と課題

横田昌三 6

職能代表としての地方議員の可能性

辻 陽 10

コロナ困りごと相談会に取り組んで

榎原登志子 14

コロナ感染症 市議会はどう対峙したのか

牧田正樹 16

子どもの貧困をなくすために

阿部浩子 18

「車いすの視点」から広がる可能性

村上 博 20

「海洋放出は安全」を学校でPRさせるなんて

豊巻直子 22

見えない貧困に立ち向かう

金崎昌之 24

学校統廃合に待った！を

岡野 勉 26

職場、労働条件の改善を進めたい

篠原重寿 29

自民王国「富山」でできること

東 篤 31

まなぶ論壇

敵基地攻撃能力

国民が理解しないまま進める姿勢に疑問……及川徹也

交渉するにも力が必要、と言われそう……岡部智子 33

私はこう考える

軍事的価値を優先させる暴論……斉藤小百合

日本のうしろ 世界のうしろ

J-P労組の22春闘 毎回のよう事業危機を強調……佐竹 要

コロナパンデミックとスポーツ どんな影響が？……谷口源太郎 51

職場の法律相談

パワハラで退職金がなくなるの？……小竹広子 59

憲法 3 9条と執拗な排外主義

北川鑑一 62

- ◆ 働く現場から 37
- ◆ キャラバンサライ 38
- ◆ スポーツ時評 40
- ◆ メルボルン便り 42

- ◆ 宇宙・アート・文化 44
- ◆ 数字を疑え 46
- ◆ 中国観看 48
- ◆ たちみ席 50

- ◆ 北から南から 66
- ◆ センターとみなさんをつなぐ 68

カット＝野崎安希子、高野日出見

まなぶということ

245Tがまた騒ぎを起こしている

飯島 貞親

猛毒のダイオキシンを含む化学物質で、ベトナム戦争で米軍が散布して多くの被害をもたらした枯れ葉剤の原料になったもので、日本各地の森林にいまも埋められている。近年、相次ぐ豪雨災害などによって、漏れ出す恐れがあり不安視されている。

製造時に高濃度のダイオキシンが不純物として混入していたが、当初はその毒性が認識されておらず米軍は1961年から10年間使いつづけた。

一方、日本では、まだ人体への影響が確認されていなかった1964年、一般の除草剤として農薬登録され、1968年からは各地の営林署（当時）が散布するようになった。

当時、スギやヒノキの植林が活発に行われ、成育を妨げる雑草を枯らすために245Tを使用。しかし、ベトナムでの被害が確認されてから、現場の職員たちは散布に強く反対するようになった。現

場の反発を受け、林野庁は1971年に使用を中止した。が、当時の技術では無害化処理をすることができず、地下に埋設して管理するしかなかった。林野庁は、人の目に触れることがないよう国有林の中に適地を選定。コンクリートの塊にして埋め込むなどして、周辺への流出を防ぎ管理していくことにした。

埋設から半世紀たったいま、245Tが漏れ出すのではないかとという不安が自治体や住民に広がっている。

そのため、掘り出して撤去することを想定した新たな対策に乗り出している。土壌を採取して245Tの成分を分析することや、周囲に飛散させずに掘削処理することになっている。

日本の地中に埋まる「負の遺産」を今後どうしていくのか。半世紀前には想定されていなかった災害の実態をふまえた早急な対策が求められている。

また、戦争が終わりいなくなった武器が化成肥料や農薬として、第1次産業のなかで当然のように使われてきて多くの問題を引き起こしている事実を忘れてはなるまい。

（林野退職者の会）